

2012年10月発行 29号 すどう美術館  
〒250-0853 神奈川県小田原市堀之内 373  
TEL.0465-36-0740 FAX.0465-36-0739  
info@sudoh-art.com  
http://www.sudoh-art.com

## 巨大じゃがいもアート(KJA)で 世界とつながろう

浅野 修

東日本大震災は自然と人災の両面から恐ろしく厳しいものでありました。自然の力は厳しくもあり、時には美しい力も与えてくれます。生物は(人間も)宇宙の摂理の源で生きなければなりません。

日本は世界でも美しい自然に富んだ山脈列島であり、地形、気候、伏流水等から農産物、魚、畜産等、質に恵まれ、その質の良さが脳、精神にも影響し、まさに食文化大国の条件が揃っています。

日本人の食べ残した食料で世界の餓えた子供を救えます。但し、今の日本の食糧自給率は40%ですが、もしTPPが発足すると自給率は13%になるとも言われています。そうすると私たち日本人の身体はどうなるのでしょうか。

1000年に一度の大震災を機に、私たちが日頃手がけている「農業は美しい」

の主題に添って、新たに「巨大じゃがいもアート」のプロジェクトに取り組むことにしました。

じゃがいもを拡大した巨大アート(およそ縦6m×横8mの大きさ2つ)を作り、食文化を主題として、日本各地の子供から高齢者まで、さらに世界にも拡げ、食に恵まれない国の子供たちも含め、100万点を目指して大勢の方に小作品を制作していただきます。

そして、その小作品を巨大じゃがいもの中身として詰め込み大アートを創造表現します。出来上がったアートから今、日本や世界が描かれている食の問題の原点を検証し、社会に問いかけるための良いチャンスにしたいと思いません。

なお、じゃがいもは北海道十勝めむろにある、大きな赤レンガ倉庫の中は作られます。このプロジェクトの協力をすどう美術館にも願うことになり楽しみにしています。

## すどう美術館の秋二つ



### 点描

## こんな話でよかったら(16) 仙仁司

まだまだ続く夏の思い出

ちょっと涼しくなった途端、心はすっかり秋を向き、あれ程暑かった現実感もう消失した。これまで体験したこともないという九州や関西の大雨、猛暑と少雨の東京、悪質すぎるイジメや虐待、シリア紛争と山本美香さんの壮絶死、原発稼働反対デモ、オスプレイ配備、そして家庭内の日常も、その後には続く荒浪に掻き消され、心と頭の一角におき考える前に遠のいてしまう。

それでもこの夏はこのような社会に耳目をしっかり向けながら、春までに予定している4つのグループ展と個展の制作に時を送った。この夏の事々を体内に取り込み、少しずつ意識を刺激し、感性の幅を拡大しながら、現実を眼を背けることのないように想いながら。

常々考えていることだが、思想も宗教も人々の生命を奪うものであってはならない。狂信し、先鋭化するのではなく、様々な宗教と思想は美術や音楽と同じようにそれぞれ一つの文化として受け止める。そして心の多様な反応力を育む素材として受容すべきものではないのか。人々の心を潤し共存共栄に向う時思想も宗教も文化としてリベラルな姿になる。宗教や思想の優劣ではなく、要素の多くを多面的に取り込むことではじめて確かな接点を持つようになるではないか。これまで失われたあまりにも多くの生命、その大半は人々の誤解と無理解がその根本因ではなかったか？

思想、宗教、政治家、インテリに疑念を向けながらこの夏は制作に過ごした。  
妻の叱咤激励がありがたかった。

9

わからなくていい  
先日、新劇の役者さんと話す機会があった。彼は長年、数多くの不条理劇で様々な役を演じており、それを私も見続けている。  
不条理劇というのは、セリフの辻褃が合うような合わないような、なんとも不思議な世界で一見難解である。しかし、彼は「表現したいことをストレートに言うのではなく、幾重にも重ねられるセリフのやりとりや演出で表現していくことこそ芸術ではないか、よくわからなくてもよいのだ」と言う。確かにわからなくても、毎回何か強く心に残るものがあり、それが心地よい刺激となり楽しいものだ。  
話を聞きながら現代美術の作品に重ね合わせていた。日頃「わからぬ、むずかしい」とよく言われるが、たとえよくわからなくても、その作品と向き合って自分の中に残った何かを感じとればよいのではないか。自由な気持ちで作品に触れられれば、美術はもっと楽しくなる。それを伝えていくことは、私の大切な仕事のひとつだと感じている。

高橋玉恵



